



古文入門

古文はどろどろして 難しい？

- ・ 歴史的仮名遣い
- ・ 主語や助詞の省略
- ・ 古語や古典文法
- ・ 文化や慣習、
考え方が違う

読み方や文法、古語は少しずつ
覚えていこう。

省略された主語や助詞を見抜くコツも
これから教えます！

いろんな古文を読んで、昔の人たちの
考えていたことや、文化を知ろう。



歴史的仮名遣い

① 語中・語末の

「は・ひ・ふ・へ・ほ」

↓ 「ワ・イ・ウ・エ・オ」

と読む



こんにちは

② 「ゐ・ゑ・を」

↓ 「イ・エ・オ」と読む

「を」を「オ」と読むのは
現代語でも同じ。
ちなみに、カタカナでは
「ゐ」↓「ヰ」
「ゑ」↓「ヱ」
と表記するよ。



③ 二つの母音が重なると
長音で読む。

あう (au) → オー

いう (iu) → ユー

えう (eu) → ヨー

おう (ou) → オー

④ 「ち・づ」「は」「ジ・ズ」
と読む。

⑤ 「む」「は」「ん」とも読む。

⑥ 「くわ」「ぐわ」は
「カ」「ガ」と読む。

⑦ 「つ」「や」「ゆ・よ」の
大小は文脈で判断。

問一

次の古語を現代かなづかいに直して、ひらがなで書きなさい。

(1) をり (折り)

(2) こゑ (声)

(3) ゐる (居る)

(4) をさなし (幼し)

(5) あづまぢ (東路)

わからなかった人は、

- (1) はスライド3の①
- (2) はスライド3の②
- (3) はスライド3の②
- (4) はスライド3の②
- (5) はスライド4の④

を見直しましよ。じ。

問一の解答

答え合わせをしましょう。

(1) をり (折り)

おり

(2) こゑ (声)

こえ

(3) ゐる (居る)

いる

(4) をさなし (幼し)

おさなし

(5) あづまぢ (東路)

あづまぢ

問二

次の語の読み方を例に従って、カタカナで書きなさい。

(1) こよひ (今宵)

(2) いうげん (幽玄)

(3) いたう (「たいそう」という意)

(4) やうやう (「次第に」という意)

(5) てふ (蝶)

(6) くわじ (火事)

わからなかつた人は、

次のところを見直しましょう。

(1) はスライド3の①。

(2) はスライド4の③。

(3) はスライド4の③。

「いたう (itau)」の
「あう(ou)」を「オー」
と読んで、
Photo (イター)「
となります。

(4) はスライド4の③。

「なゆなゆ」の「(na)yu」

「あゆ(au)」を「オー」

と読んど、yooyo

「オーオー」やなごまご。

(5) はスライド3の①と
スライド4の③。

まご、つむ「ぶ」を

「ひ」と読んど「ひん」。

「ひん (eu)」の「(ne)ひん」

「eu)」を「オー」と読んど、

tyoo(チオー)ど。

(6) はスライド4の⑥。

問二の解答

答え合わせをしましょう。

(1) こよひ (今宵)

コヨイ

(2) いうげん (幽玄)

ユীগエン

(3) いたう (「たいそう」という意)

イトー

(4) やうやう (「次第に」という意)

ヨーヨー

(5) てふ (蝶)

チヨー

(6) くわじ (火事)

カジ

まとめ問題

問

スライド1～4の内容を使って、次の条件に合ったテストをつくりましょう。解答も書きなさい。

- 条件1 5点満点にすること。
- 条件2 配点は自由にしてよい。
- 条件3 必ず一つは、記述の（答えが文か文章になる）問題を入れること。